

教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校)

実践年度・タイトル		平成28年度 iPadを利用した弱視生徒の漢字学習
授業について	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input checked="" type="checkbox"/> その他(自立活動)
	単元・題材名	漢字の理解と正確な書き取り
	授業の目標	既習の常用漢字の形を復習し、漢字を正確に理解する。
	観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識・理解」 <input type="checkbox"/> 「技能」 <input type="checkbox"/> 「思考・判断・表現」 <input checked="" type="checkbox"/> 「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/> その他()
学習集団と子どもの実態	学校・学部・学年・人数	<input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない 第2学年 1人
	対象の障害	<input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子どもの課題 (特性・ニーズ)	<input checked="" type="checkbox"/> 見る <input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input checked="" type="checkbox"/> 読む <input checked="" type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 計算する <input type="checkbox"/> 推論する <input type="checkbox"/> 運動と姿勢 <input type="checkbox"/> 日常生活活動 <input type="checkbox"/> 不注意 <input type="checkbox"/> 多動性・衝動性 <input type="checkbox"/> 社会性・コミュニケーション <input type="checkbox"/> 覚える・理解する <input type="checkbox"/> その他 漢字の定着に課題があり、漢字学習への抵抗感が強い。また、強度弱視のため、漢字学習において、はねや止め、線の数など字の細部まで確認することが難しく、正確な漢字の形を理解することが難しい。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称と画像 (使用した支援機器・教材の名称を記載し画像を挿入。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	iPad(Apple社) 常用漢字筆順辞典(Nowproduction社) 
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) 生徒は書見台を使用しているため、ノートと同一の平面上で、漢字を任意の倍率で白黒反転表示できることからiPadを利用した。使用したアプリでは、筆順に沿って一画ずつ漢字を表示したり、一画の表示スピードを変化させたりすることができるため、学びやすいと考えた。
授業に授業展開の支援	授業展開と画像 (授業の様子、ICT活用場面の画像を挿入。)	<input type="checkbox"/> 授業時数 30時間 1時間で取り扱う漢字は16文字までとし、各時間の終了前に5問の書き取り問題を行った。生徒が興味・関心をもつようプロ野球に関する文章を作成し、PDFファイルにしてiPadで表示した。 生徒は、文章に出てくる漢字を1文字ずつ、上記のアプリで筆順や細部を確認しながら書き取りを行った。状況に応じて、筆順の速度を下げ、注意を促したり、一時停止して部首を確認したりするなど、授業者が説明しながら漢字の書き取りを行った。 
効果・評価	子どもの様子や変容および授業の評価	生徒が興味・関心のある題材を用いたことで、漢字の細部まで確認できるようになり、学習に集中できる時間が長くなったり、小学校第4・5学年に習う漢字を正しく書けるようになったりした。また、漢字を細部まで把握することにより、偏と旁などのパーツに分解し、漢字を理解することができるようになった。今後は、漢字学習ドリルなどのアプリを活用し、漢字の読み書きの学習を継続できるよう取り組んでいく。